

平成25年度「学校教育自己診断アンケート」の分析と考察

本校は従来「学校生活アンケート」（各学年生徒向け）、「総合学科アンケート」（3年次生徒対象）、「学校教育自己診断アンケート」（保護者向け、教員向け）の3種類を実施していたが、今年度はそれらを統合し、「学校教育自己診断アンケート」（保護者用、生徒用、教員用）として実施した。

※各質問結果の1「あてはまる」2「ややあてはまる」の合計を肯定率とした。考察はこの肯定率80%未満の結果に対して行った。

(1)「保護者用アンケート」の結果と考察について

○質問【2】より、全体で72%であるが1年次の数値が64%と低く、年次が進行するにしたがい上がっている

⇒1年次においては、中学校の学習の仕方やスピード、量などが違い、慣れていないために授業について行けていないと考えられる。今後は習熟度チェックを頻繁に行い、授業の進度を調整する必要がある。

○質問【10】より、家庭への連絡、意思疎通が70%とやや低い

⇒保護者が必要とする情報内容が多種に渡り担任が把握しきれていない。さらに、生徒が配布された連絡プリント等を確実に保護者に伝えていないのが要因と考えられる。今後は一層HPを活用して、情報を発信していくことが必要である。

○自由記述について

⇒「学習」「カリキュラム」「部活動」「行事」「学習環境」「全般」と多岐にわたり、多くの保護者からご意見、要望等をいただいた。それらについては全て教職員に周知し、各分掌・学年等で検討・改善に努めていく。

特に、環境面で「冬の教室が寒すぎる」という意見を多くいただいたが、今後はエアコンの整備点検を行い、適正な室温管理に努めていく。

(2)「生徒用アンケート」の結果と考察について

生徒用「学校教育自己診断アンケート」の結果と、保護者用「学校教育自己診断アンケート」との結果比較を行った。生徒用アンケート結果では、ほとんどの質問に対して肯定率が高く学校生活に満足していると考えられる。しかし、質問【8】と質問【9】に関しては肯定率80%を得られなかった。

○質問【8】、生徒への「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる(か)」という質問では、肯定率が1年28%、2年40%、3年60%全体43%と低い結果になっている

⇒1年次については担任が中心に相談を受けるが、学年が進行するにしたがい、選択授業も増え積極的に担任外の教員とも接する機会が多くなり、相談に行くことが増えたと考えられる。

○質問【9】、生徒への「学習環境の施設・設備は満足している(か)」という質問では1年55%、2年60%、3年81%、全体65%と肯定率が低かった

⇒保護者用アンケートでは80%と高いが、生徒用アンケートで低いのは、教室のエアコン設備に対しての不満の現われであると考えられる。次年度は点検整備を行い、このようなことが無いように対応していく。

(3)「教員用アンケート」の結果と考察について

○質問【11】より、教育相談体制ができていくことへの肯定率は78%であった

⇒生徒がもっと活用しやすいように工夫を凝らして、生徒へのアピールを強化していく。

○質問【26】より「PTA活動への教職員の参加している」が51%と低い

⇒週休日はクラブ指導、講習等で多忙な教員が多いため、あまり参加できないのが現状である。校内でできるPTA活動を増やすなど行事の内容を検討すれば、参加できる教員も増加すると思われる。

○質問【27】より、「仕事の引き継ぎがスムーズに行われて継続性がある」が57%と低い

⇒年度替わりに、各学年・分掌・委員会のPDCAを徹底して行い、次年度の課題に向けて、どのような対策をしかけ、解消して行くのかを全教員一人ひとりが組織人としての認識を高め、共有理解していく。